

全町一斉クリーンアップ作戦時における刈払機使用の注意点

◆刈払機を使う際は特に以下の点に気を付けましょう。

1. ヘルメット、保護メガネや防振手袋など、作業に適した服装、装備で行いましょう。(図1)
2. 刈払機の取扱説明書をよく読み、刈刃は正しく取り付け、使用前には刃の欠けやネジの緩みがないかチェックするとともに、定期的な点検も忘れずに行いましょう。(図2)
3. 作業をする前に小石や枝、硬い異物などを除去し、15m以内に人がいないか確認して作業をしましょう。
4. 障害物や地面などにぶつかって起きる刈刃の跳ね(キックバック)に注意しましょう。
5. 刈刃に詰まった草や異物を取り除く際は、必ずエンジンを止めてから行いましょう。
6. 周囲の方は、作業者が安全対策をきちんと行っているか一緒に確認し、作業中も作業者に変わったことがないかを常に意識するようにしましょう。

図1 刈払機による作業時に身につける服装・保護具

(一般社団法人日本農業機械工業会発行「刈払機の正しい使い方」より)

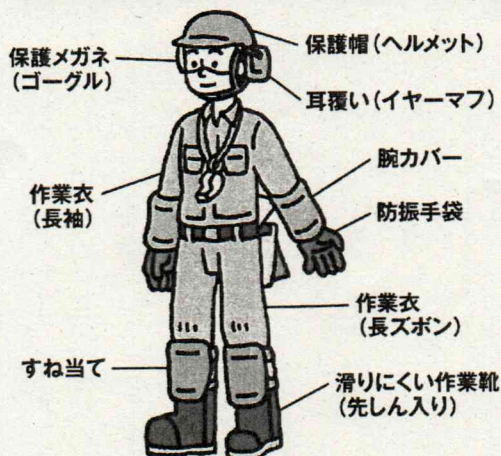
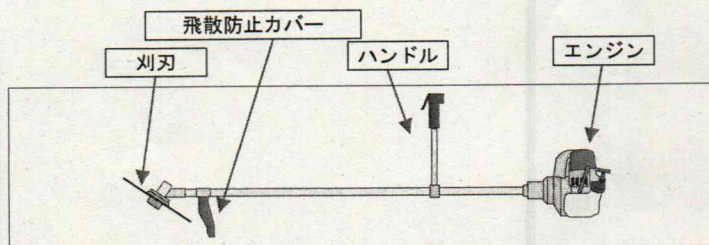


図2 刈払機の例

(一般社団法人日本農業機械工業会発行
「刈払機の正しい使い方」より)



◆刈払機の作業中の事故に注意！

医療機関ネットワークには、2019年度から2024年6月末日までの5年間あまりで刈払機による草刈り中の事故が29件寄せられており、作業者本人がけがをした事例のほか、周囲にいる人にけがを負わせてしまった事例もみられました。

○医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

医療機関ネットワークに寄せられた事故事例29件について、事故状況を独自に分類すると、刈刃に触れた事故が17件（59%）、飛散物による事故が11件（38%）、その他の事故が1件（3%）でした。また、刈刃に触れた事故17件の原因を調べたところ、転倒が原因となった事例が2件（12%）、刈払作業中に別の作業者が接近したことが原因となった事例が2件（12%）、キックバックが原因となった事例が1件（6%）、異物の除去中に刈刃が回転したことが原因となった事例が1件（6%）で、原因不明なものが11件（64%）でした。

【主な事故の事例】

・転倒により刈刃に接触した事例

自宅の裏山で刈払機を使用していた。斜面でバランスを崩し誤って刈払機が右大腿部に当たった。右大腿部に長さ30cmの切創。

・刈払作業中に別の作業者が接近して刈刃に接触した事例

同僚の草刈り作業が終わったと勘違いして同僚に近づき刈払機にて受傷。右下腿、膝下5cmに15cm程度の挫創あり。

・キックバックにより周囲の作業者に刈刃が接触した事例

同僚が刈払機で作業中に、飛び石がないように隣でネットを持っていた。刈払機が固いものにあたり、はねて下腿に接触した。

・刈刃に絡まった異物を取り除く際に回転しはじめた刈刃に接触した事例

刈払機に挟まった草をエンジンは切らずに取ろうとしたところ、刃が動いて左指趾を切ってしまった。

・飛散物により作業者が受傷した事例

1カ月前に刈払機にて草刈りをしていた際に左膝に刃の破片が当たった。

・飛散物により作業者以外が受傷した事例

工場敷地にて草刈りをしている脇を通り過ぎた時に鼻に金属片が刺さった。土手ののり面に埋まっていたネットフェンスであった。

※刈払機を安全に使用するためには、刈払作業者が正しい使用方法や刈払機特有の危険性について理解し、安全な刈払い作業が行えるよう努めましょう。